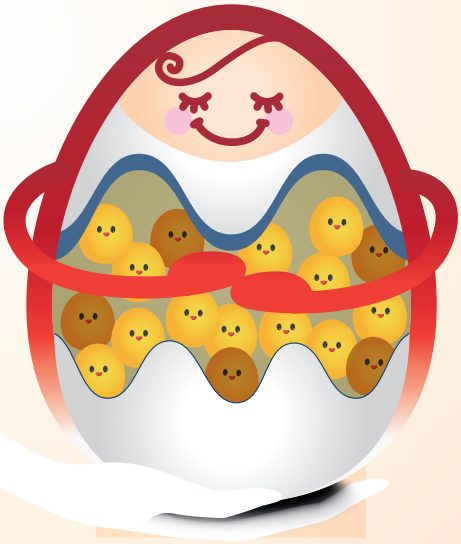
BECKMAN COULTER

あなたの卵巣もっと知りませんか？

簡単な血液検査でチェックできます。

一人の女性が持つ卵子の数は限られています。卵巣内に残っている卵子の数の目安を知ることで、一人ひとりに適した治療方針を選択することができます。



抗ミュラー管ホルモン（Anti-Müllerian Hormone：AMH）検査について

AMHは、血清で測定でき、卵巣内の成長する可能性がある二次卵胞や前胞状卵胞の貯蔵量を推定する数値となる検査です[1]。

体外受精法の卵巣刺激法においては、ゴナドトロピン刺激に対する卵巣の低反応や過剰反応を避けるため、卵巣予備能検査を用いて、ゴナドトロピン製剤の容量を選択することが臨床的に有用とされています[2]。

2024年6月の診療報酬改定により、一般不妊治療にも保険適用が拡大され、より多くの患者さんに対して卵巣機能の評価や治療方針の決定を目的に使用可能となりました。

AMHの測定に関する留意事項

1. AMHは卵子の質とは関連しません。
2. AMHの測定値は個人差が大きく、若年女性でも低い場合や高齢女性でも高い場合があり、測定値からいわゆる「卵巣年齢」の推定はできません。
3. 測定値と妊娠する可能性とは直接的な関連はなく、測定値から「妊娠できる可能性」を判定するのは不適切と考えられます。
4. 測定値が低い場合でも「閉経が早い」とは断定できません。

参考　1. 日本生殖医学会編 . 生殖医療ガイドライン . 杏林舎 , 2021, p.23-5.
2. La Marca A. et al. Br J Obstet Gynaecol. 2012:119:1171-9.

多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）の診断基準

（PCOS：Polycystic ovary syndrome）

2024年版の診断ガイドラインにて、新たにAMH高値が組み込まれました

多嚢胞性卵巣症候群の診断基準（日本産婦人科学会生殖・内分泌委員会，2024）	以下の1～3の全てを満たすものを多嚢胞性卵巣症候群とする 1. 月経周期異常 2. 多嚢胞卵巣またはAMH高値（20-29歳：4.4 ng/mL以上、30-39歳：3.1 ng/mL以上） 3. アンドロゲン過剰症（総テストステロン：0.47 ng/mL以上）またはLH高値（LH：9.9 IU/mL以上、LH/FSH比：1.51以上）

※ AMH検査は不妊症の患者に対して卵巣機能評価および治療方針の決定で保険適用されています（2025年時点）。

AMH 高値

- 20 – 29 歳　4.4 ng/mL 以上
- 30 – 39 歳　3.1 ng/mL 以上

アンドロゲン過剰症

- 総テストステロン　0.47 ng/mL 以上

※アンドロゲン過剰症状で判定も可

LH 高値

- LH　9.9 mIU/mL 以上
- LH/FSH 比　1.51 以上

※肥満例（BMI ≧ 25）ではLH/FSH 比高値のみで可

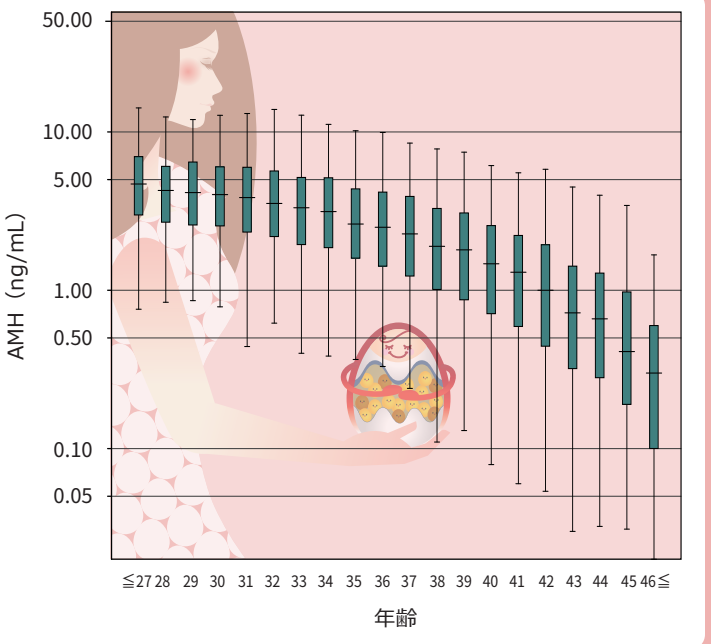
参考　1. 松崎利也，他：“多嚢胞性卵巣症候群に関する全国症例調査の結果と本邦における新しい診断基準（2024）について”. 日本産科婦人科学会. 2023-12-04. https://www.jsog.or.jp/news/pdf/PCOS1_20231204.pdf、https://www.jsog.or.jp/news/pdf/PCOS2_20231204.pdf（参照2025-1-19）
2. 木内理世，他：エクルーシス試薬テストステロンII, LH, FSHの基準値の検討. 医学と薬学 64（1）：87-93, 2010.

AMH測定値の年齢別分布

ノンパラメトリック法、多嚢胞性卵巣（PCO）と早発卵巣不全（POI）を除く

データご提供：JISART（日本生殖補助医療標準化機関）

年齢（歳）	AMH（ng/mL） 中央値	95% RI*	n
≦ 27	4.69	0.76 - 14.18	558
28	4.27	0.84 - 12.44	387
29	4.14	0.86 - 11.97	555
30	4.02	0.79 - 12.74	663
31	3.85	0.44 - 13.08	865
32	3.54	0.62 - 13.87	872
33	3.32	0.40 - 12.76	959
34	3.14	0.38 - 11.16	1,064
35	2.62	0.37 - 10.18	1,191
36	2.50	0.33 - 9.93	1,122
37	2.27	0.24 - 8.50	1,154
38	1.90	0.11 - 7.81	1,230
39	1.80	0.13 - 7.45	1,176
40	1.47	0.08 - 6.13	1,057
41	1.30	0.06 - 5.52	888
42	1.00	0.05 - 5.81	715
43	0.72	0.03 - 4.49	509
44	0.66	0.03 - 3.98	309
45	0.41	0.03 - 3.43	144
46 ≦	0.30	0.02 - 1.67	127
全群	**2.36**	**0.12 - 10.67**	**15,545**



* Reference Interval（基準範囲）

山本貴寛，ほか：日本生殖医学会雑誌 61(4)：487, 2016.

検査コード	検査項目	材料	検体量	容器	保存条件	所要日数	検査方法	基準値	診療報酬区分番号	保険点数	保険収載名称
7169	抗ミュラー管ホルモン	血清	0.5mL	A1 ↓ A2	冷蔵	2～4日	CLEIA 法	検査案内 36 ページまたは、上表「測定値の年齢別分布」参照	D008 52	597*	抗ミュラー管ホルモン（AMH）

＊ 抗ミュラー管ホルモン（AMH）は、不妊症の患者に対して、卵巣の機能の評価及び治療方針の決定を目的として、血清又は血漿を検体としてEIA法、CLEIA法、ECLIA法又はCLIA法により測定した場合に、6月に1回に限り算定できる。

FALCO bio systems

BECKMAN COULTER

MAPSS-DX-202511-3